

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1691000077		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター山見		
所在地	富山県南砺市山見330-2		
自己評価作成日	平成29年11月2日	評価結果市町村受理日	平成30年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成29年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・季節毎の行事や、曆に沿った行事食を実施し、四季を感じていただけるよう工夫している。 ・地元や国産の食材を使用し、安心・安全な食事提供に努めている。 ・入浴時は一人一人お湯の張替えを行っている。 ・利用者様それぞれの得意な事に取り組んでもらっている。 ・併設の小規模多機能型居宅介護サービスの利用者様と日常的に交流を図っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの共有空間の一面が掃き出しの窓になっていて、眺望が良く気持ちよい生活空間となっている。「お客様が笑顔で地域に根ざしたその方らしい生活を送れるよう支えていきます。」との事業所の理念に沿って、利用者お一人おひとりの生活スタイル、現存しているその方の力を引き出すケアの実践に取り組んでいる。一般住宅に近い浴室はプライバシーを保ち、落ち着いてゆったりとした入浴環境に加え、一人ごとに浴槽を洗い湯を張り替え、衛生面にも配慮されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社社は「ほほえみ理念」を玄関、スタッフルームに掲げ、ミーティングで唱和している。社是を行動規範として、その方らしい生活を支えるサービスの実践に繋げている。	玄関やスタッフルームに掲示し、職員が意識できる環境を作っている。また月1回の業務ミーティングで確認したり、その人らしい生活支援につながるよう介護計画に取り入れ実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの訪問がある。ニチイまつりには地域へも案内し、交流を図っている。散歩に出たときは、挨拶を交わす。	ニチイまつりでは、地域へ事業所の理解を深め交流が進むように地域の方を招き、利用者の作品展示や演芸など、利用者地域の方と共に楽しめる機会を作っている。日常的に散歩の時には挨拶するなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期見学会を開催し、随時介護相談を受け付ける機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、行政、民生委員を交えて会議を開催し、現状についての意見を頂いている。行政への要望を伝えたり、行政からの情報を聞いたりする機会となっている。	ご家族や行政の方が参加している会議では、グループホームの運営に関する情報交換の他に、ご家族が行政の取り組みなどを知る機会にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月定期営業にて実情や取り組みを伝えていく。困難ケース等を相談する事もあり、信頼関係の構築に努めている。	毎月、事業所の入居情報(空き情報含む)を営業活動として地域包括支援センターに案内し、新規受け入れをスムーズに行えるよう取り組んでいる。入居者が在宅に戻りたいとの希望に応え、包括支援センターに相談し在宅復帰を支援した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の研修計画に身体拘束についての研修を計画し、実施している。ホール入口の終日施錠について行動制限であることの認識を深め、利用者にも与える影響を鑑み、開錠する時間を作ることに取り組んだ。	身体拘束や行動抑制が利用者にもどのような影響を与えるか、定期研修を開催したり、具体的に示されたマニュアルを活用し理解と周知に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修計画に高齢者虐待の研修を計画し実施している。ユニット毎のカンファレンスで気づいたことを話し合い、改善に取り組んでいる。職員間で気づきを話し合える関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者無しの為協議、研修の機会はなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は十分な時間をとり説明し、納得を得た上で締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。年1回顧客満足度調査の実施で意見や要望の把握に努めている。改善要望事項には改善計画を立て、利用者家族に配布している。日々の中での家族からの要望等は管理日誌で共有する。	普段から家族の面会時などに言葉がけをし、要望等を伺うように努め職員間で連絡し、共有には管理日誌を活用している。年1回の顧客満足度調査のアンケートは事業所ではなく直接運営している本部に届くシステムがあり、改善点など丁寧に計画されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティング、ユニットミーティングの開催や個々の面談を実施し、意見を聞く機会を設けている。	ホーム管理者が現場にいる事もあり、職員は日常的に意見を言いやすい関係構築がされている事が、職員からの面接での聞き取りからも伺えた。また年2回の職員の個別面談を実施し、職員からの意見を聴く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の勤務状況を把握し、キャリアアップの機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立てて毎月研修を行っている。法人主催の研修の参加機会もある。資格習得に向けて相談に乗っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会の研修に参加し、情報交換している。入居者紹介も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は想いをきちんと聞けるよう、答えやすい、分かりやすい言葉かけに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点から家族の困りごとに耳を傾け想いの傾聴に努めている。施設でできる事、できない事をきちんと伝え、互いのできる事を話せるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	両者の思いを良く聞き、その時必要なサービス利用の紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に考え、できる事をさせていただいている。教えてもらった事を一緒に行なうことで、絆が深まっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子、本人の言葉から本人が何をしたいのか一緒に考えるように努めている。昔の事、家でのことを聞き取り参考にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人の来訪を受け入れている。行き着けの美容院の利用の支援を行っている。また、馴染みの場所へのお花見外出も実施している。	ご家族や知人の面会時にはゆっくり過ごしていただけるように支援している。家族の協力にて馴染みある美容院へ出かける支援のほか、車での外出の時は、利用者の要望に応じて地域の神社等、地域の中の懐かしい場所へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の言動から利用者が穏やかに過ごせるよう座席の配置に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談があれば可能な範囲で対応して行く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中から利用者の希望、意向の情報収集に努めている。家族来訪時には本人の様子を伝え希望等を聞き、アセスメントシートに落とし込みケアプランに反映している。	日常の関わりの中から得た情報や職員の気づきが介護記録に記載されており、事業所の理念である「笑顔で・中略・その人らしい生活支援」の実践に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネージャーより情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送りノートの記載により本人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の想いを確認し、ユニットミーティングで課題、ケアについて話し合いケアプランを作成している。	6ヶ月毎にモニタリングを実施している。介護計画の更新については家族の要望や介護記録をもとに計画作成担当者が中心となり、職員で話し合い作成されている。情報の共有、介護計画の実践に個別に記載されている生活支援シートが活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基にスタッフ間で情報共有を行い、介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	保険外サービス等の提案を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院や地域のかかりつけ医との連携をとっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時かかりつけ医についての協議をしっかり行い、受診については家族の協力を得ている。通院困難な方には協力医の訪問診療を紹介している。文章や、診察時同席で連携を図っている。	かかりつけ医については入居契約時に意向を確認している。家族が受診同行されるときは、事業所から主治医に情報提供している。また訪問診療を利用している方も事前に主治医へ情報提供を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護連絡表により利用者の現状、心配な事を相談し、対応方法のアドバイスもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早々に連絡を取り、情報交換を行う。毎月病院の連携室を訪問し、情報交換し関係作りに努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における対応に係る指針を説明し、同意を得ている。本人の状態が重度化した場合、都度、家族・関係機関と話し合い対応している。	重度化についての指針、対応は契約時に説明し同意を得ている。利用者及びご家族にとって安心できる支援に努め、状態の変化に対しては早い段階で主治医、家族と相談しながら行う。老人保健施設、療養型病床等へ移動がある時は家族の同意のもと情報提供を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って研修し、周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回自衛消防訓練を行い、避難方法を全てのスタッフが身につけることができるようにしている。夜間を想定しての訓練も行った。	年2回の火災避難訓練は、どのスタッフも有事の際には慌てず的確に対応できるスキルが身につくよう、人手の薄い夜間災害を中心に実施している。	非常災害時の職員の連絡網、体制作り及び災害についての地域との協力体制の構築に向けて、消防団などの協力が得られるような働きかけに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の好きな事、安心できる事、嫌いな事不快に思う事を理解、把握に努め言葉かけ、傾聴している。情報はスタッフで共有できるように申し送っている。	尊厳の保持、プライバシーの確保については年間の研修計画にて職員へ周知している。実践においてはご本人が不快な気分にならないように言葉かけに気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない動作が何を意味しているのかを考え、言葉をかけるようにしている。利用者の言葉を語尾をあげて繰り返す事で次の想いが身振り、言葉で返ってきている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何かをされているときは、終わるまで見守り、待つことに努めている。作業、制作、体操等希望を聞きながら一緒に行えるよう関わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔、整容の声かけを行い、上手く出来ない部分を手伝い、満足していただけるように関わっている。その人なりの服装の理解に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様にメニューを知らせ、作り方を聞いたり、味付け等を聞いている。テーブル拭き、食器拭きの作業をお願いしている。	正月のおせちに始まり年末の年越しそば、節句など、季節ごとに風習や国民の休日にちなんだ献立やおやつ作りなどを年間計画し提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	小盛の方や粥等それぞれの決められた量や食事形態で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、利用者全員に歯磨き、うがいの声かけを行い実施している。出来ない方には介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットの吸収量を個々に応じて検討し対応している。排泄パターンを記録から読み取り、その方のペースに合わせてトイレ誘導している。できる動作は行ってもらっている。	個人の介護記録から排尿・排便のリズムを把握し、声掛けによるトイレ誘導を行い排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食前に足踏み等運動の機会を持っている。便秘の方には牛乳や水分を多く摂れるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の入浴スタイルに沿った方法で介助椅子や手すりを利用し安全に入浴していただいている。一人毎に浴槽の掃除、お湯の張替えを行い、気持ち良く入浴を楽しめるよう支援している。	月曜～土曜の午後からが基本の入浴の時間と設定されているが状況に応じて調整している。浴室は手すりが十分設置され、安全に入浴支援ができる環境になっている。一人ひとりゆったりと職員との会話をしながらくつろいだ時間となるよう行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の好きなタイミングで休息してもらっている。夜間眠れないときはリラックスしてもらえるよう話を傾聴する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴を理解し、投薬の目的、効果、飲み合せ等を説明書にて確認している。個々に合わせた方法で服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に以前から通っている美容院や洋品店へ家族と一緒に外出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションで図書館やお寺へ外出している。ホームからの支援が困難な時は家族にお願いしている。好天時は希望者と散歩に出かけている。	桜や菖蒲など季節の花見への外出や地域にある神社、図書館や公園等、計画を立てて集団で外出するほか、個別に買い物へ出かけたり、数人で散歩したり畑作業をしたり戸外へ出る機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかって来た電話を繋いだり、希望された時は電話をかける支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーには季節に応じて利用者と制作した掲示物を飾り、季節を感じて頂いている。	季節の草花や果実などを飾り、利用者との話題作りに活用されている。共有フロアは季節に応じ、作成された作品が飾られている。共有のトイレは、利用者が判別しやすいようにドアにシールが貼ってあり、床にも印があり、なるべく利用者が混乱することないように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の定位置は決まっているが、好きな席やテレビの前の席、外の景色を見れる席等座れるよう椅子を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンスや家族の写真を飾ったり、好みの絵を飾ったりしていただいている。	一人ひとりの生活スタイルに応じて、家具や小物、ご本人が元気なころに書いた絵等が飾ってあったり、居室空間はその人にとって居心地の良い生活環境作りをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置をどの位置からでも分かりやすく表示している。居室の名札を利用者に応じて見やすくしている。		

(別紙4(2))

事業所名: ニチイケアセンター山見

作成日: 平成 30 年 1 月 16 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	非常災害時の職員の連絡網・体制、地域との協力体制が整っていない。	・非常災害時の職員の連絡体制を整える。 ・年2回の非常災害訓練に地域住民の参加を得る事ができる。	・火災非難訓練時に職員の緊急連絡方法の訓練実施する。 ・近隣住民に運営推進会議に出席していただけるよう働きかけ、火災非難訓練実施の参加をお願いしていく。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。